

< ##html:content_type## >

メールマガジン 埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.367 2022.1.24

県議会テレビ番組「こんにちは県議会です」
1月1日(土・祝)放送 特別番組「新春インタビュー」
(主要会派代表議員)

県議会広報テレビ番組「こんにちは県議会です」(テレビ埼玉)では、各定例会の様態や各委員会委員長のインタビューなど県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメールマガジンでは、前号に引き続き1月1日(土・祝)に放送した特別番組「新春インタビュー」(主要会派代表議員)の内容をお伝えします。

司会進行は、テレビ埼玉の荒木優里アナウンサーです。



[☆放送スケジュールなど詳しくは、県議会のホームページをご覧ください。>](#)

INDEX



県議会広報

テレビ番組「こんにちは県議会です」特別番組「新春インタビュー」

- ・埼玉県議会自由民主党議員団 小島 信昭 団長
- ・無所属県民会議 岡 重夫 代表
- ・埼玉民主フォーラム 田並 尚明 代表
- ・埼玉県議会公明党議員団 西山 淳次 団長
- ・日本共産党埼玉県議会議員団 柳下 礼子 団長



議事堂の花

生け花のご紹介



県議会広報

【こんにちは県議会です 特別番組「新春インタビュー」】

〈埼玉県議会自由民主党議員団 小島 信昭 団長〉

団長 新年あけましておめでとうございます。埼玉県議会自由民主党議員団 団長の小島信昭です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



—はじめに、昨年の感想からお聞かせください。—

団長 振り返れば、一昨年に引き続き、新型コロナウイルスという脅威への対策に全力を傾けた年でした。

—多くの人たちが不安を感じていましたね。—

団長 私たちは、希望者へのワクチン接種を1日でも早く完了させることが重要と考え尽力してまいりました。また、医療提供体制を強化するとともに、コロナ禍で影響を受けた事業者への支援など本県経済を下支えする対策も先頭に立って進めてきたところです。

そんな中、本県も会場となった東京オリンピック・パラリンピックの開催は、昨年の明るい話題の一つでした。コロナ禍で疲れた世界に少なからず希望や力を届けられたのではないかと考えています。

—他に会派として力を入れてきたことはありますか。—

団長 本県が人口減少社会に突入していく中で経済成長を持続するには、超スマート社会への変革が不可欠です。わが会派はその実現に向け、行政の背中を強く押してまいりました。これにより、昨年3月に埼玉県デジタルトランスフォーメーション推進計画が、7月に鶴ヶ島市の農業大学校跡地周辺地域にロボット開発を支援するための実証フィールドと拠点施設を整備する基本構想が策定されるなど、一歩ずつ前進しているところです。

—会派として、さまざまな提案や要望をされているのですね。—

団長 県民の皆さまのために何が必要かを考え、積極的に政策を提言しております。たとえば昨年は、県民が安心して暮らせる社会に向け「埼玉県エスカレーター安全利用の促進に関する条例」を提案し、全国初の条例として施行させることができました。

—それでは、今年の抱負をお聞かせください。—

団長 防災や減災、県土強靱化を推進し、災害に強い街づくりを進めること、そして、本県の魅力や可能性を最大限に引き出し、未来を切り開いていくことが、私たちに課せられた大きな責任であると認識しております。自由民主党議員団は、本県の発展のために全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

[▲トップへ](#)

〈無所属県民会議 岡 重夫 代表〉

代表 皆さま、新年明けましておめでとうございます。無所属県民会議の岡重夫です。今年も県民目線の政治にしっかりと取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



—まず、昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—

代表 昨年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大と県経済への影響をいかに食い止めるかに力を注いだ1年でした。

特に、会派として県の施策では行き届いていなかった支援も提言してきました。具体的には、5月に「酒類販売事業者の支援を求める要望書」を大野知事に提出し、その後、県の追加支援が実現しました。

また、9月には「デルタ株感染拡大に関する緊急要望」を提出しました。その中で提言した「自宅療養者情報の市町村との共有」についても、県と市町村が覚書を締結することで実現されました。

—今年はどうのようなことに取り組んでいこうとお考えですか。—

代表 私たちが考える今年の重点施策は4つあります。1「新型コロナショックからの回復」、2「新しい時代を切り拓く教育の推進」、3「子供の命を守る施策への重点投資」、4「異常気象に打ち勝つ埼玉県政」の4つです。昨年10月に知事に提出した予算要望書にもこの考えを盛り込みました。今後の予算編成に注目し、政策実現のために取り組んでまいります。

また、本年4月1日から施行される種に関する種苗法改正に伴い、県内農家の皆様から不安の声が届けられています。これを受け、わが会派の議員が議会の委員会の場において、法改正に伴う県の準備状況を確認するとともに、許諾料や手続きが大きな負担とならないよう要請しました。県内農業の支援も充実させてまいります。

—他に力を入れていきたいことはありますか。—

代表 そうですね。児童養護施設などを巣立った子ども達への支援です。昨年秋に会派主催で「社会的養護を知り 児童虐待を考える」という勉強会を開催し、地方議員や行政職員にも参加いただきました。こうして得た成果を政策や条例にまとめていきたいと考えております。

今年も県民の暮らしに寄り添った政策や条例の提案に向けて活動してまいります。

[▲トップへ](#)

〈埼玉民主フォーラム 田並 尚明 代表〉

代表 県民の皆さま、明けましておめでとうございます。埼玉民主フォーラム代表の田並尚明です。皆さまには穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



—まず、昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—

代表 昨年は、令和2年に引き続き新型コロナウイルス対策に追われた1年でした。市町村や医療関係者の皆さまのご協力により、検査及びワクチン接種体制が整備されました。関係者の昼夜を問わずのご尽力には本当

に頭が下がる思いです。会派といたしましては、更なる体制の強化に向けて、県民の皆さまや医療現場の声を聴き、執行部に届けてまいりました。

—事業者の皆さんもコロナの影響を大きく受けていますね。—

代表 そうですね。大変なご負担になっていました。我々も事業者の皆さまからご意見を伺い、知事へ予算要望を行いました。事業者支援を所管する産業労働部の令和3年度予算は、補正予算も含めて3,000億円を超えています。そして、事業者の皆さまのご理解ご協力は感染者減少に大いに寄与したと思います。心より感謝申し上げます。

—そうした中、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。—

代表 そうですね。さまざまな議論がある中での開催となりましたが、埼玉県にゆかりのある選手も多くメダルを取ることができ、県民の皆さまも元氣や勇氣、そして深い感動をもらったのではないのでしょうか。

今後は、県といたしましてもアスリート支援を通じて、スポーツ、パラスポーツの振興で県民に元氣を与える施策の推進を期待するところです。

—最後に、今年の抱負をお聞かせください。—

代表 新型コロナ対策に関しては、今後も決して油断をせず、さまざまな準備をすることが必要だと思います。また、アフターコロナの県内経済も心配です。飲食店などにおいては、お客さんがすぐには戻ってこないなどの声も聴きます。今後も注視していく必要があると思います。

とにかく、1日も早く埼玉県の元氣を取り戻し、県民の皆さまに「やっぱり埼玉に住んで良かった」と思ってもらえるよう、地域の声をしっかり受け止め、その声をかたちにするべく、今年も会派一丸となり全力で取り組んでまいります。

[▲トップへ](#)

〈埼玉県議会公明党議員団 西山 淳次 団長〉

団長 あけましておめでとうございます。埼玉県議会公明党議員団団長の西山淳次です。本年も何卒よろしくお願いいたします。

—まず、昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—



団長 何といっても新型コロナウイルスへの対応に追われた年だったと思います。臨時会が8回も開かれ、コロナ関連の補正予算も積み上がり、一般会計の総額は当初予算より約5,000億円も増えました。県民生活の現場では、ワクチン接種をはじめ、病床の確保や自宅療養者の支援、時短営業の協力金など、次々と出てくる課題に公明党議員団は全力で対処しました。外出自粛や時短営業など、さまざまにご協力いただいた県民の皆様にも本当に感謝申し上げたいと思います。

—本当に大変な1年でしたね。今年はどんな年になっていくのでしょうか。—

団長 まず、コロナ第6波への備えとして、3回目のワクチン接種、感染ピーク時に備えた医療体制の確保、保健所の強化などが重要です。加えて、傷んだ経済への支援が課題です。さらには、コロナによって分断された

社会の「絆」をどう取り戻すのか。コロナと共存しつつ、ポスト・コロナへと向かう出発の年にしたいと思います。

—ポスト・コロナの社会とはどんなイメージなのでしょう。—

団長 コロナは図らずも現代社会のさまざまなひずみを浮き彫りにしました。一番大きく問われたのは自然と人間の在り方、関係性だと私は思っています。現代文明は、人間が自然を支配できるという大前提で成り立っていますが、それは間違いであり、人間の思い上がりです。人間は自然の一部であり、自然に生かされているという観点から現代文明を見直し、新たな在り方を模索していくべきです。

—スケールの大きなお話ですね。—

団長 ずいぶん大きなことを言うと思われるかもしれませんが、それくらい、人類は重要な転換期を迎えているんだとの認識が政治には必要だと考えています。その具体策をどう県政の場で展開していけるか。未来に向けて埼玉から新たな潮流を起こせるように頑張っていきます。

[▲トップへ](#)

〈日本共産党埼玉県議会議員団 柳下 礼子 団長〉

団長 皆さん、あけましておめでとうございます。日本共産党県議団、団長の柳下礼子です。今年もよろしくお願いいたします。

—まず、昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—



団長 昨年の新型コロナウイルス感染症第5波では、入院病床・宿泊療養施設が不足し、埼玉では7人の方が自宅で亡くなりました。この根底には政府の「PCR検査を広げると医療崩壊が広がる」という科学無視の姿勢と「中等症以下の患者は自宅療養」という自己責任論があります。このような中、地方自治体の役割は、県民を感染から守り、暮らしを立て直すための防波堤となることです。党県議団は一貫してPCR検査の拡大、病床の確保を訴えてきました。政府は昨年11月、症状のない人への無料のPCR検査の実施や希望する軽症者全員「待機施設」滞在の方針を示しました。引き続き県民の命を守るため検査の拡大、病床確保を求めてまいります。

—今年はどうのようなことに取り組んでいこうとお考えですか。—

団長 世界各地で異常な豪雨や猛暑、海面上昇などが起きており、気候危機の問題も待ったなしの課題となっています。

党県議団は県に「地産地消の再生可能エネルギーを推進すること」「保護すべき森林の開発を規制し、保全すること」「優良な小規模再生可能エネルギー事業へ融資し、収益が生じたら返済してもらおう。自然災害などでうまくいかなかったときは返済を免除するという制度を導入すべき」と提案しています。引き続き気候危機打開のために力を尽くしてまいります。

[▲トップへ](#)

議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



◆展示期間
11月29日～12月3日
◆作者
池坊明流 小
渋恭園様
◆花材
石化柳、南
天、菊、佐賀
菊(スプレー
菊2色)



◆展示期間
12月6日～12月10日
◆作者
一葉式いけば
花 田中 泉春様
◆花材
南天、アルス
トロメリア、ヒ
ペリカム、柳

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈池坊明流 小渋恭園様〉

Q:とても華やかな生け花ですね。テーマは何でしょうか。

A:秋の風情をテーマに生けました。華やかな菊や、紅葉している柳を使いました。

Q:柳が伸び伸びと生けられていて、とても印象的です。

A:議事堂は空間が大きいですから花だけだと窮屈に感じられるため、柳を使って伸びやかにしました。



〈一葉式いけ花 田中 泉春様〉

Q: 今回の作品のテーマは何ですか。

A: もうすぐ到来するクリスマスをテーマに生けました。大粒のヒペリカムの実に、赤い南天の実とアルストロメリアを合わせ、クリスマスカラーに仕上げました。

Q: 大きく色鮮やかな作品で、広い議事堂が華やかになりますね。

A: 実がぎっしりとつまった赤い南天が、作品をさらに鮮やかに彩ってくれています。また、細長い銀の花器で作品に高さを与えました。

☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。》

[▲トップへ](#)

【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから》](#)

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257/FAX 048-830-4923

